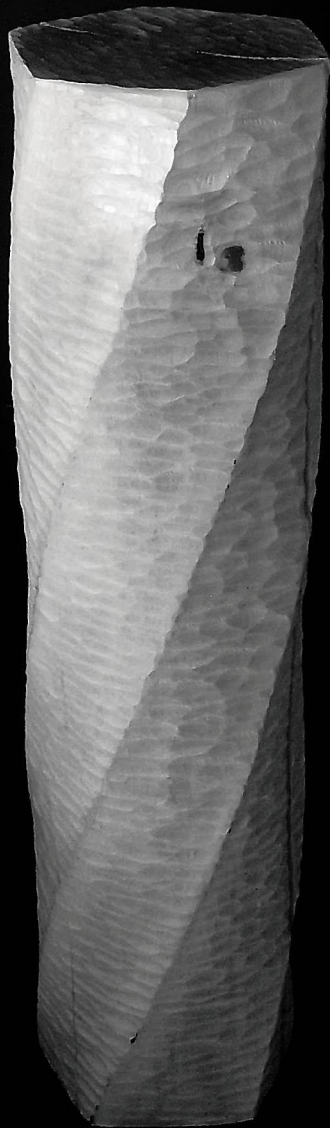


# 個と連なりと

—モノダの記ししるに



《基柱》(マクナ) 2015年 シラカバ

## 中庭展示 -Court Installation- Vol.05 藤井 忠行

FUJII Tadayuki

2015.5/2sat.-9/6sun.

観覧料：一般300(240)円 高校・大学生200(140)円 小・中学生無料

※ ( )内は10名以上の団体料金 ※ 免除規定がありますのでお問合せください ※ 年間観覧券でもご覧いただけます

※ 常設展及び同時開催の企画展も併せて観覧できます ※ 5月5日は無料観覧日

休館日：毎週月曜日

※ 月曜が祝日のときはその翌日(5月4日は開館)、5月7日(木)

開館時間：9:30-17:00

※ 入場は16:30まで

Tomakomai City Museum あみゆー

苫小牧市美術博物館

〒053-0011 北海道苫小牧市末広町3丁目9-7

Tel 0144-35-2550 / Fax 0144-34-0408

<http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan/>



《しずかな連記Ⅲ》2013年 シラカバ

中庭展示 -Court Installation- Vol.05 藤井 忠行

# 個と連なりと一モナドの記しに

「中庭展示-Court Installation-」は、当館の中庭スペースにおいて、その空間を活用した作品を個展形式により紹介するシリーズ企画です。第5回目となる今回は、素材の特性を活かした作風を展開している彫刻家・藤井忠行（1943年～）のインスタレーション<sup>\*</sup>を紹介し、旭川出身の藤井は現在、鷹栖町の山林を拠点に、そこに豊富に存在する木を主な素材として作品を制作しています。本展示では、メインとなる吹き抜けの空間に、伸長していく樹木の原理的構造を想起させる《基柱》が“個”として配される一方で、周囲の回廊には、複数の小品によってもたらされる“連なり”が対比的に展示されます。素材との対話を通して生みだされるその造形は、いずれも材質や質感の相違、そしてモノとしての量感や構造といった本質的な要素が際立つものですが、それと同時に作品が展示空間に対し、いかにして関係性を保ちながら成立するののかということが意図されています。木という自然物としての特性を意識しながら、作品と空間との関係性を追求し続ける藤井の作品世界をどうぞご覧ください。

※ インスタレーション：設置、架設の意。作品それ自体だけではなく、展示空間そのものを作品として提示する表現手法。



《しずかな連記Ⅱ》2013年 シラカバ

## 藤井 忠行 FUJII Tadayuki

### 主な個展

1986、87、88年 ラボラトリー（札幌）  
1997年 中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館（旭川）  
2004年 チェジュアートギャラリー（済州・韓国）

### 主なグループ展

1987、88、80年 「北海道の美術—イメージ展」（北海道立近代美術館／札幌）  
1990、92、98、03、08年 「アジアプリントアドベンチャー」（札幌、音威子府）  
1991年 「島から島へ KOREA-PRINT-JAPAN」（済州島文藝開館／韓国）  
2000、02、06、07、09年 「水脈の肖像展」（札幌、旭川、石狩、ソウル・韓国）  
2000、02年 「旭川彫刻フェスタ」公開制作（旭川）  
2001年 「6 ARTISTES JAPONAIS」（Atelier Visconti／パリ）  
2001、06、08、10年 「立体表現展」（北海道立近代美術館、札幌芸術の森美術館／札幌）  
2010年 「旭川彫刻フェスタ記念展」（中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館、北海道立旭川美術館／旭川）  
2011年 「帯広コンテンポラリーアート2011 真正闇の100日」（帯広）  
「ハルカヤマ芸術要塞2011」（銭函春香山／小樽）  
2014年 「ART IN SAKKURU 公開制作」（音威子府）  
「FAR EAST コンテンポラリーアート2014」（旧大和小学校／北見）

### その他

1990年 「旭川オペラ『ヘンゼルとグレーテル』舞台美術」（市民文化会館／旭川）  
2001年～ 日本美術家連盟会員〔彫刻〕  
2005年 旭川市科学館エントランスホールシンボルモニュメント制作（旭川）  
2010、11年 北見市留辺薬2条橋周辺広場モニュメント制作設置（北見）  
2008～2012年 小熊秀雄賞選考委員

個と連なりと一モナドの記しに 制作メモ

彫刻には、作品自身の存在の強さによって成り立つものと、もう一つは素材が他との関連性によって生成された空間、いわゆる場の強度によるものがあると考えています。

前者は量塊（場合によっては、マイナスのマス）による仕事です。おおくは意志的なものに依拠します。後者は単体の集合などによる、関係性の在りかた、成りたち方偶然性も含めての空間化です。おおくは、前者は強い内部構造をもちそれ自身で完結しています。後者は、素材の物性や設置空間の特性などが大きな要素となつて構成されます。またそこで用いられるものは、どこにでもあるシンプルな素材が要求されます。少し乱暴ですが、前者は量塊の、後者は空間の彫刻とすることが出来るのではと思っています。

今回の展示は、その二つの作法を混在させ構成したものです。見えない内部構造、関係性、手の痕跡の空間化などを、体感していただけたら幸いに思います。

藤井 忠行

\*モナド：実在を構成する究極の要素、単子（ライプニッツの単子論）  
\*場の強度：物体の実体ではなく、見えない形相の強さ  
\*マイナスのマス：量塊が欠損した部分や、物と物に挟まれた空間など、量塊の反転した部分



### アクセス

#### ● 公共交通

JR苫小牧駅前バスターミナルより市内路線バス「13番」「21番」「23番」に乗り、「文化公園」で下車（所要時間約5分、料金210円）徒歩約5分

#### ● 自家用車

国道276号線と国道36号線の交差点（「苫小牧信用金庫中野支店」かど）を港方向へ曲がり交差点の次の信号を右折 ※文化公園内に駐車場あり（70台）

Tomakomai City Museum あみゆー

## 苫小牧市美術博物館

〒053-0011 北海道苫小牧市末広町3丁目9-7

Tel 0144-35-2550 / Fax 0144-34-0408

<http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan/>